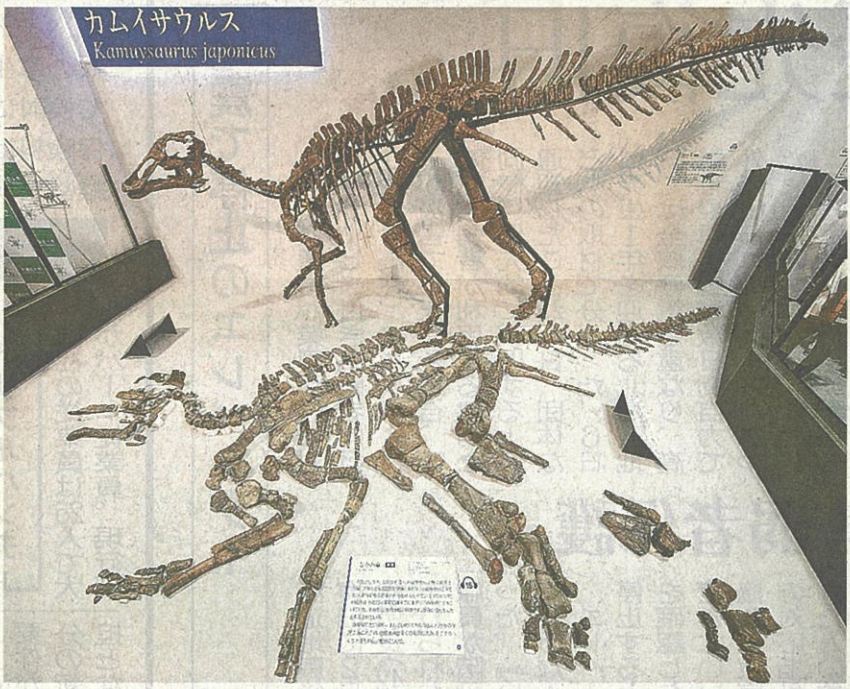
北海道で化石発見 新種・むかわ竜



北海道むかわ町で発掘され、学名を「カムイサウルス・ジャポニクス」と命名された大型恐竜の全身実物化石（下）と全身復元骨格＝4日、東京・上野の国立科学博物館

「カムイサウルス」と命名

北海道むかわ町で見つかったハドロサウルス科恐竜、通称「むかわ竜」の化石について、北海道大総合博物館の小林快次教授らの研究チームは、新種として学名を「カムイサウルス・ジャポニクス」と命名し、6日付の英科学誌電子版に発表した。国内で発見され学名が付いた恐竜は8例目。

小林教授は「カムイはアイヌ語で『神』。日本の恐竜の神という意味を込めて命名した。今後生態などの研究を進めていく」と話した。

小林教授によると、細い前脚を持ち、背骨の上に伸びる突起が大きく前に傾いていることなどが特徴。また、頭の骨の形状から、薄く平たい板状のとさかがあった可能性があるという。

カムイサウルスは2003年、むかわ町穂別の約7200万年前（白亜紀後期）の海の地層から見つかった。体積比で全身の8割を超える骨格が確認され、頭部から尾部まで全長約8㍍、体高は約4㍍。全身骨格では国内最大になる。

化石や全身復元骨格は、国立科学博物館（東京）で開催中の恐竜博で展示されている。10月14日まで。

岡山理科大・千葉助教 年齢、体重分析に貢献

新種と判明した「カムイサウルス・ジャポニクス」の化石研究には、岡山理科大（岡山市北区理大町）の千葉謙太郎助教（34）＝古脊椎動物学、写真＝も参加。骨の内部構造の分析などから年齢や体重を明らかにし、具体的なイメージを膨らませるのに貢献した。

千葉助教は北海道出身で、北海道大大学院時代に小林快次教授の指導を受けた縁などからチームに加わった。組織学研究を担い、後ろ脚の骨（脛骨）の断面に浮かぶ年輪に似た成長停止線を解析。導き出した成長曲線などから、化石は9歳以上の成体であることを確定させた。

また、大腿骨の太さなどから、カムイサウルスの体重は二足歩行の場合は約4㌧、四足歩行であれば約5.3㌧と推定した。

岡山理科大の恐竜化石調査で現在、モンゴルに滞在中の千葉助教は「古里で見つかった国内最大の恐竜全身骨格の研究に加われ、ワクワクしながら取り組んだ。カムイサウルスの化石を、種の特徴が確定する成体と明らかにできたことは、種の分類をする上で役立ったと思う」と話した。（平松隆）

④「カムイサウルス」命名

北海道むかわ町で見つかったハドロサウルス科恐竜、通称「むかわ竜」の化石について、北海道大総合博物館の小林快次教授らの研究チームは、新種として学名を「カムイサウルス・ジャポニクス」と命名し、６日付の英科学誌電子版に発表した。国内で発見され学名が付いた恐竜は８例目。

2019/9/6 山陽 1面右